

神奈川県 の 給与・定員管理等について

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

区分	住民基本台帳人口 (27年1月1日)	歳出総額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 25年度の人件費率
26年度	人 9,116,666	千円 1,950,050,199	千円 7,547,768	千円 711,376,274	% 36.5	% 37.0

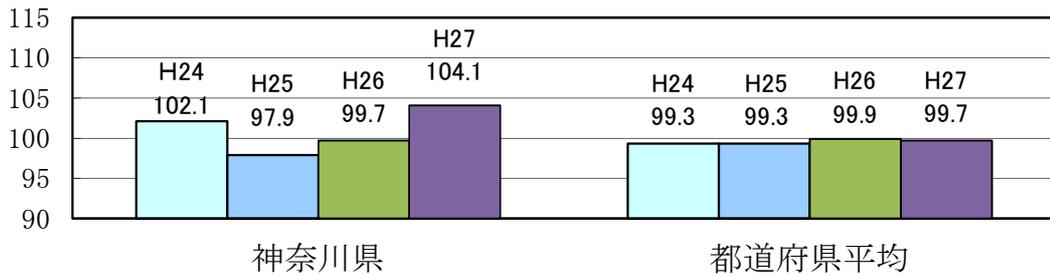
(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

ア 決算

区分	職員数 A	給与費				(参考)一人当たり 給与費 B/A	(参考)都道府県平均 一人当たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
26年度	人 72,755	千円 309,209,037	千円 87,587,967	千円 126,701,018	千円 523,498,022	千円 7,195	千円 7,123

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。
 2 職員数は、26年4月1日現在の人数である。
 3 給与費については、任期付短時間勤務職員（再任用職員（短時間勤務））の給与費が含まれており、職員数には当該職員を含んでいない。

(3) ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数（構成）を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表（一）適用職員の俸給月額を100として計算した指数。
 2 平成24年及び平成25年は、国家公務員の時限的な（2年間）給与改定・臨時特例法による給与減額措置がないとした場合の値である。

※ 平成27年4月1日のラスパイレス指数が、①3年前に比べ1ポイント以上上昇している場合、②3年連続で上昇している場合、③100を超えている場合について、その理由及び改善の見込み

【理由】

- ・緊急財政対策の一環として、職階に応じ、6%または4%の減額を行っていた給与減額措置が平成26年度末で終了したこと
- ・平成26年度の人事委員会勧告どおりに、給与改定を行ったこと

【改善の見込み】

県職員の給与と県内の民間従業員の給与との比較を行い、その較差を解消するため、県職員の給料の引き上げや引き下げ、諸手当の改定を行うよう求める人事委員会勧告を踏まえ、適切に対応。

(4) 給与改定の状況

①月例給

区分	人事委員会の勧告				給与改定率	(参考) 国の改定率
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A-B	勧告 (改定率)		
27年度	402,972円	400,236円	+2,736 (0.68%)	0.68%	0.68%	0.36%

(注) 1 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパイレース比較した平均給与月額である。

②特別給(期末・勤勉手当)

区分	人事委員会の勧告				年間支給月数	(参考) 国の年間 支給月数
	民間の支給 割合 A	公務員の 支給月数 B	較差 A-B	勧告 (改定月数)		
27年度	4.20月	4.10月	0.10月	0.10月	4.20月	4.20月

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は期末手当及び勤勉手当の年間支給月数である。

(5) 給与制度の総合的見直しの状況

【概要】 国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

①給料表の見直し

[実施]

【実施内容】

地域間、世代間の給与配分の適正化などを図る国の給与制度の総合的見直しを踏まえた給料表水準の引き下げ。(平成27年4月1日実施)

- 行政職給料表(1)の水準を平均2.37%引き下げ。他の給料表については、行政職給料表(1)との均衡を踏まえて見直しを実施。
- 給料表引き下げに伴う激変緩和のため、平成31年3月31日まで経過措置を実施。

②地域手当の見直し

実施内容(国基準における場合の支給割合及び当該団体の支給割合)

(支給割合) 国基準10.8%に対し、神奈川県においても10%を支給。

(参考)

	平成26年度 の支給割合	平成27年度の支給割合		見直し後の支給割合 (H28.4.1)
		4月1日時点	遡及改定後	
国基準による支給割合	10.8%	11.6%	13.0%	13.9%
神奈川県の支給割合	10.0%	10.0%	10.6%	※

※ 今後、県人事委員会から示される給与勧告を踏まえて定める。

③その他の見直し内容

管理職員特別勤務手当及び単身赴任手当について、国と同様に見直しを実施。(平成27年4月1日実施)

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（27年4月1日現在）

①一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
神奈川県	43.0 歳	339,369 円	442,169 円	392,503 円
国	43.5 歳	334,283 円	—	408,996 円
都道府県平均	43.3 歳	333,258 円	419,584 円	374,044 円

②技能職

区 分	公 務 員				
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国ベース)
神奈川県	55.1 歳	340 人	361,934 円	430,719 円	408,823 円
うち学校技能職	57.4 歳	82 人	387,913 円	461,848 円	440,645 円
うち庁舎技能職	54.1 歳	55 人	352,516 円	440,430 円	400,951 円
うち電話交換職	51.5 歳	28 人	386,371 円	447,849 円	431,458 円
国	50.2 歳	2,994 人	289,141 円	—	328,318 円
都道府県平均	51.6 歳	260 人	330,741 円	386,250 円	363,809 円

区 分	参 考		
	年収ベース（試算値）の比較		C/D
	公務員（C）	民間（D）	
神奈川県	—	—	—
うち学校技能職	7,291,671 円	2,774,400 円	2.63
うち庁舎技能職	6,875,009 円	2,774,400 円	2.48
うち電話交換職	7,116,726 円	—	—

※ 民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用している。（平成24～26年の3ヶ年平均）

※ 技能労務職の職種と民間の職種等の比較にあたり、年齢、業務内容、雇用形態の点において完全に一致しているものではない。

※ 年収ベース（試算値）の「公務員（C）」及び「民間（D）」のデータは、それぞれ平均給与月額を12倍したものに、公務員においては試算した期末・勤勉手当の額、民間においては前年に支給された年間賞与の額を加えた試算値である。

③高等（特殊・専修・各種）学校教育職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
神奈川県	45.3 歳	381,263 円	458,777 円
都道府県平均	44.8 歳	381,390 円	443,257 円

④小・中学校（幼稚園）教育職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
神奈川県	40.7 歳	348,786 円	415,774 円
都道府県平均	43.3 歳	366,907 円	422,193 円

⑤警察職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
神奈川県	38.1 歳	323,852 円	472,312 円	375,908 円
国	41.2 歳	317,165 円	—	369,393 円
都道府県平均	38.6 歳	321,121 円	458,794 円	366,870 円

(注) 1 「平均給料月額」とは、27年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。

2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。

また、「平均給与月額(国ベース)」は、比較のため国家公務員と同じベース(=時間外勤務手当等を除いたもの。)で算出している。

(2) 職員の初任給の状況(27年4月1日現在)

区 分		神 奈 川 県		国	
一般行政職	大 学 卒	198,880 円		総合職(旧I種)	199,320 円
	高 校 卒	161,150 円		一般職(旧II種)	191,620 円
技能職	高 校 卒	158,620 円		—	
高等学校教育職	大 学 卒	222,090 円		—	
小・中学校教育職	大 学 卒	222,090 円		—	
	短 大 卒	197,450 円		—	
警 察 職	大 学 卒	230,560 円		214,060 円	
	高 校 卒	193,490 円		180,180 円	

(注) 1 職員の初任給は、地域手当(給料の10%)を加算している。

2 国の職員の初任給は、地域手当が10%支給される地域に勤務した場合の額である。

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況(27年4月1日現在)

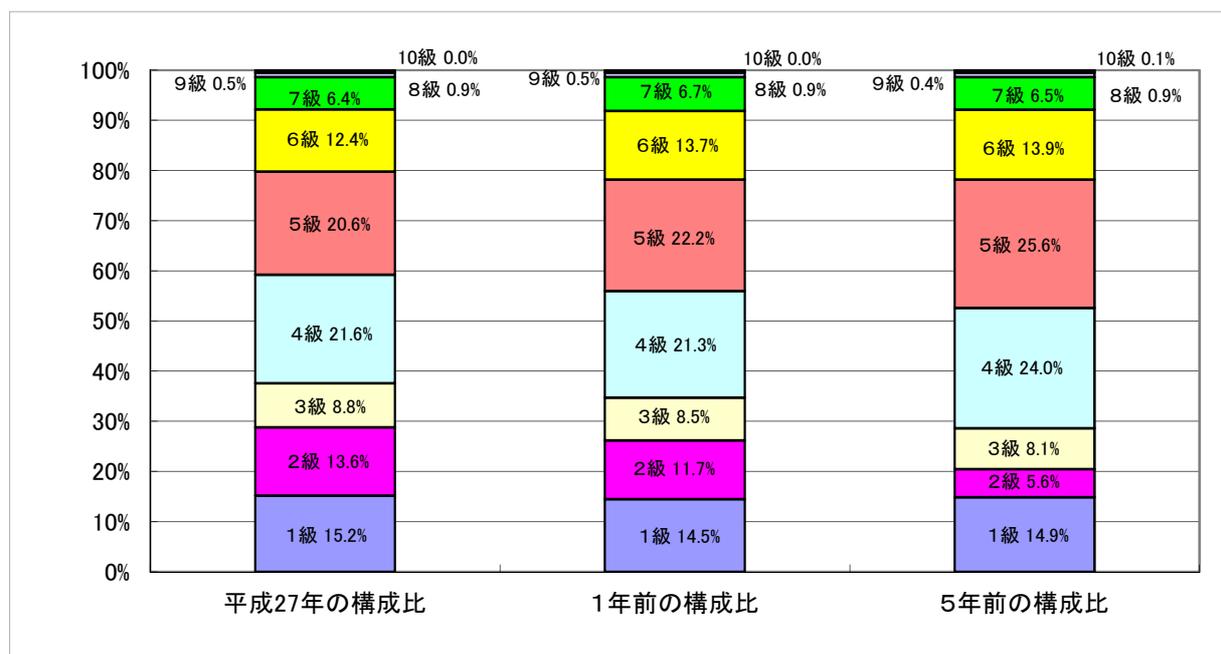
区分		経験年数10年	経験年数20年	経験年数25年	経験年数30年
一般行政職	大 学 卒	273,527 円	373,035 円	400,413 円	424,507 円
	高 校 卒	227,500 円	326,550 円	380,531 円	397,002 円
技能職	大 学 卒	—	360,900 円	—	—
	高 校 卒	—	—	372,367 円	—
高等学校教育職	大 学 卒	314,333 円	394,971 円	422,498 円	443,935 円
小・中学校 教 育 職	大 学 卒	317,339 円	396,261 円	422,531 円	442,835 円
	短 大 卒	289,588 円	380,751 円	407,013 円	428,505 円
警 察 職	大 学 卒	279,020 円	386,725 円	—	—
	高 校 卒	256,593 円	351,288 円	397,400 円	391,800 円

3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数の状況 (27年4月1日現在)

区分	標準的な職務内容	職員数(人)	構成比(%)	1号給の給料月額	最高号給の給料月額
10級	理事	5	0.0	519,400	558,500
9級	局長、特定の大規模出先機関の長	43	0.5	456,100	526,700
8級	本庁の部長、大規模出先機関の長、副所長	82	0.9	405,800	468,400
7級	本庁の課長、出先機関の長、副所長、部長、担当部長	583	6.4	360,100	449,800
6級	グループリーダー、出先機関の次長、課長、課長補佐	1,136	12.4	315,800	424,400
5級	副主任、副技幹	1,881	20.6	285,000	402,400
4級	主査	1,973	21.6	258,300	387,900
3級	主任主事、主任技師	808	8.8	223,900	347,700
2級	高度の知識経験を必要とする主事、技師	1,242	13.6	187,700	301,900
1級	主事、技師	1,385	15.2	137,600	244,900

(注) 1 神奈川県給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(注) 平成18年4月1日より級の切り替えを実施。
 (1級・2級→1級、3級→2級、4級→3級、5級→4級、6級→5級、7級→6級、8級→7級、9級→8級、10級→9級・10級)

(2) 昇給への勤務成績の反映状況

人事評価結果に基づいて昇給区分(A～Eの5つの区分)を決定。

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

神奈川県		国	
1人当たり平均支給額 (26年度)		—	
1,653 千円			
(26年度支給割合)		(26年度支給割合)	
期末手当	勤勉手当	期末手当	勤勉手当
2.60 月分	1.50 月分	2.60 月分	1.50 月分
(1.45) 月分	(0.70) 月分	(1.45) 月分	(0.70) 月分
(加算措置の状況)		(加算措置の状況)	
職制上の段階、職務の級等による加算措置		職制上の段階、職務の級等による加算措置	
職務段階別加算	5 ~ 20 %	職務段階別加算	5 ~ 20 %
管理職加算	10 ~ 20 %	管理職加算	10 ~ 25 %

※ ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

【参考】勤勉手当への勤務成績の反映状況 (一般行政職)

実績評価に基づいて成績率の区分 (「特に優秀」、「優秀」、「良好 (標準)」、「良好でない」の4つの区分) を決定。

(2) 退職手当 (27年4月1日現在)

神奈川県			国		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分	勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分
勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分	勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分
勤続35年	41.325 月分	49.59 月分	勤続35年	41.325 月分	49.59 月分
最高限度額	49.59 月分	49.59 月分	最高限度額	49.59 月分	49.59 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2~45%加算)	
1人当たり平均支給額	3,011 千円	23,720 千円			

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、26年度に退職した職員に支給された平均額である。

(3) 地域手当

(27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		31,946,748 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		438,630 円	
支給対象地域	支給対象職員数	支給率	国の制度(支給率)
厚木市	2,270 人	10 %	15.5 %
横浜市・川崎市・鎌倉市・逗子市	43,258 人	10 %	15.0 %
海老名市	1,050 人	10 %	12.0 %
相模原市・藤沢市	8,155 人	10 %	10.5 %
横須賀市・茅ヶ崎市・大和市・伊勢原市・座間市	8,259 人	10 %	10.0 %
平塚市	2,719 人	10 %	9.0 %
小田原市	2,028 人	10 %	7.0 %
秦野市・葉山町	1,428 人	10 %	6.0 %
三浦市・綾瀬市・大磯町・二宮町	1,551 人	10 %	5.0 %
その他の県内市町村	1,914 人	10 %	0.0 %
平均支給率		10 %	12.7 %
地域手当補正後ラスパイレス指数 (ラスパイレス指数)		102.6 (104.1)	

(注) 1 「国の制度(支給率)」の欄の平均支給率は、支給対象職員に対し国の率で支給したと仮定した場合の加重平均の支給率である。

2 地域手当補正後ラスパイレス指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給率を用いて補正したラスパイレス指数。(補正前のラスパイレス指数×(1+当該団体の地域手当支給率)÷(1+国の指定基準に基づく地域手当支給率)により算出。)

(4) 特殊勤務手当 (27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		3,935,258 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		151,350 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合 (26年度)		35.7 %		
手当の種類 (手当数)		18種類		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (26年度決算)	左記職員に対する支給単価
税務手当	県税の賦課、徴収に従事する職員	県税の賦課、徴収の業務	192,554千円	月額8,000円 ～25,000円
保健福祉業務等従事手当	社会福祉に関する機関等に勤務する職員	社会福祉に関する機関等の困難な業務	39,290千円	月額230円 ～570円
	保健予防課に勤務する職員	精神障害者の診察の立会い、入院保護その他精神障害者に接して行う業務		月額290円
感染症等接触手当	保健福祉事務所等に勤務する職員	職員が感染症等の病原体を有し、もしくは有する疑いのある人に接する業務	25千円	月額290円、350円

手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (26年度決算)	左記職員に対する支給単価
家畜等取扱手当	食肉衛生検査所に勤務する職員	と畜検査に関する業務	6,970千円	日額230円 ～940円
	畜産技術センターの職員	と殺又は解体等の業務		
有害毒薬物等取扱手当	試験研究機関等に勤務する職員	人体に有害なガスの発生を伴う業務等	5,947千円	日額400円 (常時従事) 250円 (常時従事以外)
火薬類取締等業務手当	地域県政総合センター環境部等に勤務する職員	危険物、火薬類、高圧ガス等の取締業務	694千円	日額280円、330円
麻薬取締業務手当	職員	麻薬取締法による麻薬取締員としての業務	10千円	日額370円
水中等作業手当	職員	橋脚の工事の指揮等、水面下4m以上の深所で行う作業	774千円	日額250円 ～450円
		潜水器具を着用して行う潜水作業		時間額310円 ～1,500円
教務手当	保健福祉大学等の職員で専門学科又は実技指導業務等を主として担当する職員	専門学科、実技指導業務等	60,984千円	月額 給料月額 の100分の7 日額 1,280円 (教務課長等)
	消防学校に勤務する職員	消防訓練の指導業務		日額400円
危険現場手当	職員	トンネルの築造工事の指揮業務で落盤、出水のおそれのある坑内で行う業務等	3,485千円	日額270円 ～450円
		圧搾空気内における業務、-20℃以下の冷凍室等における作業		時間額200円 ～1,000円
夜間特殊業務手当	職員	正規の勤務時間による勤務が深夜・夜間に行われる業務	601,174千円	1回790円 ～3,300円
夜間緊急業務手当	職員	突発的に発生した業務等に対処するために緊急の呼び出しを受けて従事した業務	1,732千円	1回620円、 1,240円
用地交渉等手当	土木事務所等に勤務する職員	事業に必要な用地の取得等のための特に困難な交渉等の業務	1,648千円	1日600円 ～900円
災害応急作業等手当	土木事務所等に勤務する職員	河川の堤防等において重大な災害が発生した場合に行う巡回監視、応急作業等の業務	71,833千円	日額540円 ～1,820円
	職員	東日本大震災に対処するために帰宅困難区域等において行う業務		日額660円 ～6,600円
警察業務手当	警察職員	取締、警戒、警ら等の業務	1,020,418千円	日額190円 ～6,000円
航空手当	職員	航空機の整備業務	16,033千円	日額1,050円
	職員	航空機の操縦業務等		時間額1,900円 ～5,100円 (危険業務等に 加算あり)
特殊学校手当	特別支援学校に勤務する職員 ※平成26年度末で廃止	児童又は生徒の学校生活の指導又は介助の補助の業務	9,391千円	日額190円、 230円
教員特殊業務手当	小・中・高等学校又は特別支援学校等の副校長、教諭等	非常災害時における幼児、児童又は生徒の保護等の業務	1,898,523千円	日額300円 ～7,500円
漁業実習等特殊業務手当	海洋科学高校に勤務する職員	練習船による航海における漁業実習又は操船実習の指導業務に伴う生徒の安全確保の業務等	3,772千円	日額400円、900円 1回2,200円 1時間200円 ～1,500円

(5) 時間外勤務手当

支給実績 (26年度決算)	11,170,498 千円
職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)	161,985 円
支給実績 (25年度決算)	10,646,854 千円
職員1人当たり平均支給年額 (25年度決算)	155,170 円

(6) その他の手当 (27年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	国の制度との 異 同	国の制度と 異なる内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (26年度決算)
扶 養 手 当	扶養親族のある職員に支給 配偶者 14,800円 配偶者以外の扶養親族 7,000円 扶養親族でない配偶者がある場合はこのうち1人 7,800円 配偶者のない場合はこのうち1人 12,500円 満16歳の年度初めから満22歳の年度末までの子の加算 7,000円	異	13,000円 6,500円 6,500円 11,000円 5,000円	千円 7,500,272	円 269,910
管理職手 当	管理又は監督の地位にある職員の職のうちその職務の特殊性に基づき人事委員会規則で指定する職にある者に対して支給 139,300円～66,400円 (行政職給料表(1)の場合)	異	俸給の特別調整額 139,300円 ～46,300円	千円 3,062,583	円 790,752
初任給調 整 手 当	医師、歯科医師に採用された職員で大卒後42年以内 (臨床研修終了者は44年以内、インターン修了者は43年以内) に採用された職員に支給 採用後等の期間に応じて支給	異	国の制度では、科学技術に関する専門的知識を有する職員を対象とするなど支給範囲及び支給額が異なる。	千円 104,610	円 2,324,668
住 居 手 当	職員が借り受けた住宅に居住していて月額12,000円を超える家賃を支払っている場合に支給 ①職員が自ら居住する住宅 (借家・借間居住者) ○1箇月の家賃額が12,000円以下 支給せず ○1箇月の家賃額が23,000円以下 1箇月の家賃額から12,000円を減じた額を支給 ○1箇月の家賃額が23,000円を超える場合 $\frac{1 \text{箇月の家賃額} - 23,000 \text{円}}{2}$ に11,000円を加算した額を支給 ただし、支給限度額月額28,000円 ②単身赴任手当受給者の留守家族の居住する住宅 職員が自ら居住する場合の住居手当の2分の1に相当する額を支給	①異 ②同	借家・借間居住者の支給限度額 27,000円	千円 6,827,047	円 161,495
通 勤 手 当	通勤のため、交通用具又は交通機関等の交通手段によって住居と勤務公署を往復する場合に支給 ① 交通機関利用者 ○6箇月を超えない期間 (支給単位期間) につき算出した運賃等相当額 (6箇月定期券等低廉な価額) を一括支給 ただし ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,000円を超え45,600円未満の場合 $45,000 \text{円} + \frac{\text{運賃等相当額} - 45,000 \text{円}}{2}$ に支給単位数期間の月数を乗じた額を支給 ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,600円以上の場合 1箇月の運賃等相当額 - 300円に支給単位期間の月数を乗じた額を支給 ② 交通用具利用者 ・片道2km未満…支給せず ・片道2km以上60km未満 2,000円から28,100円までを利用距離に応じ1箇月の通勤手当として支給 ・片道60km以上の場合 30,500円を1箇月の通勤手当として支給 ③ 異動等に伴う新幹線等利用者の加算 ○6箇月を超えない期間 (支給単位期間) につき算出した特別料金等の2分の1相当額を支給 ただし、1箇月当たりの特別料金等2分の1相当額が20,000円を超える場合 20,000円に支給単位期間の月数を乗じた額を支給	①異 ②異 ③同	①交通機関利用者 1箇月当たりの限度額が 55,000円 ②交通用具利用者 使用距離に応じ 2,000円～ 31,600円	千円 9,665,905	円 160,494

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	国の制 度との 異 同	国の制度と 異なる内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (26年度決算)
単身赴任手当	公署を異にする異動又は在勤公署の移転に伴い住居を移転し、やむを得ない事情から配偶者と別居することになった職員のうち、単身で生活することを常況とする職員に支給 基礎額 月額 26,000円 職員の住居と配偶者の住居との間の交通距離が100km以上の場合に距離に応じて加算	同		千円 16,023	円 314,176
へき地手当	へき地学校に勤務する職員、へき地学校に準ずる学校に勤務する職員に支給 (給料月額+給料の調整額+教職調整額+扶養手当) ×8/100~16/100 (×4/100…へき地に準ずる学校)	※関係法令に基づいて県で支給		千円 0	円 0
休日勤務手当	休日に正規の勤務時間中に勤務することを命じられた職員に支給 ただし、教育職員等には支給しない。 時間外勤務手当等基礎額×休日勤務時間数×135/100	同		千円 5,350,827	円 1,473,245
夜間勤務手当	正規の勤務時間として、午後10時から翌日午前5時までの間に勤務を命じられた職員に支給 時間外勤務手当等基礎額×夜間勤務時間数×25/100	同		千円 2,266,951	円 306,593
宿日直手当	宿日直勤務職員に支給 一般の宿日直勤務 1回6,400円 特定(医師等)の宿日直勤務 1回6,400円~11,700円	異	1回4,200円 1回5,100円~ 20,000円	千円 1,773,189	円 252,124
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給対象職員、特定任期付職員及び第1号任期付研究員が、臨時又は緊急の必要その他公務運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合に支給 管理職手当の支給区分等に応じた定額を支給	同		千円 100,211	円 611,040
寒冷地手当	11月から翌年3月までの各月の初日(基準日)に寒冷地に在勤する職員に支給。ただし、休職者等は除く。 支給地域の区分及び基準日における職員の世帯等の区分に応じた定額を支給	同		千円 0	円 0
義務教育等教員特別手当	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の小学部、中学部、高等部若しくは幼稚部の校長、副校長、教頭、総括教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭、講師、実習助手及び寄宿舎指導員に支給 各給料表の級号給に応じた定額を支給	※関係法令に基づいて県で支給		千円 3,070,188	円 67,788
定時制通信教育手当	定時制課程(夜間課程のみ)を置く高校、通信教育を行う高校勤務の校長、副校長、教頭、総括教諭、教諭、養護教諭、助教諭、養護助教諭、講師(常時勤務の者及び短時間勤務職員に限る。)、特定の实習助手に支給 定時制課程 月額34,000円 管理職手当受給者 月額27,000円 通信制課程 月額17,000円 管理職手当受給者 月額13,000円	※関係法令に基づいて県で支給		千円 201,942	円 468,543
産業教育手当	農業、水産、工業に関する課程を置く高校で、実習を伴うこれらに関する科目を主として担当する副校長、教頭、総括教諭、教諭、助教諭、講師(常時勤務の者及び短時間勤務職員に限る。)、特定の实習助手に支給 級号給に応じた定額を支給	※関係法令に基づいて県で支給		千円 181,027	円 441,530
農林漁業普及指導手当	農業普及指導員、林業普及指導員又は水産業普及指導員で支給要件に該当する職員に支給。ただし、管理職手当受給者には支給しない。 給料月額×8/100	※関係法令に基づいて県で支給		千円 27,548	円 357,770
災害派遣手当	災害応急対策又は災害復旧又は復興計画のため他都道府県等から派遣された職員が住所・居所を離れて県内に滞在を要する場合に支給 県内に滞在した期間及び利用施設の区分に応じて支給	※関係法令に基づいて県で支給		千円 0	円 0
武力攻撃災害等派遣手当	国民の保護のための措置の実施のため他都道府県等から派遣された職員が住所・居所を離れて県内に滞在を要する場合に支給 県内に滞在した期間及び利用施設の区分に応じて支給	※関係法令に基づいて県で支給		千円 0	円 0
新型インフルエンザ等緊急事態派遣手当	新型インフルエンザ等緊急事態措置の実施のため他都道府県等から派遣された職員が住所・居所を離れて県内に滞在を要する場合に支給 県内に滞在した期間及び利用施設の区分に応じて支給	※関係法令に基づいて県で支給		千円 0	円 0
特定任期付職員業績手当	12月1日(基準日)に在職する特定任期付職員のうち、特に顕著な業績を挙げたと認められる職員に対して支給 給料月額に相当する額	※関係法令に基づいて県で支給		千円 0	円 0
任期付研究員業績手当	12月1日(基準日)に在職する任期付研究員のうち、特に顕著な研究業績を挙げたと認められる職員に対して支給 給料月額に相当する額	※関係法令に基づいて県で支給		千円 0	円 0

5 特別職の報酬等の状況（27年4月1日現在）

区 分		給 料	月 額	等
給料	知 事	1,450,000 円	() 円	
	副 知 事	1,160,000 円	() 円	
報酬	議 長	1,200,000 円	() 円	
	副 議 長	1,080,000 円	() 円	
	副 議 員	970,000 円	() 円	
期末手当	知 事	(26年度支給割合)		
	副 知 事	2.75 月分		
	議 長	(26年度支給割合)		
	副 議 長	4.10 月分		
退職手当	知 事	(算定方式)	(1期の手当額)	(支給時期)
	副 知 事	給料月額×在職月数×60/100	41,760,000円	任期ごと
	備 考	給料月額×在職月数×45/100	25,056,000円	任期ごと

(注) 1 給料及び報酬の()内は、減額措置を行う前の金額である。

2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

6 職員数の状況

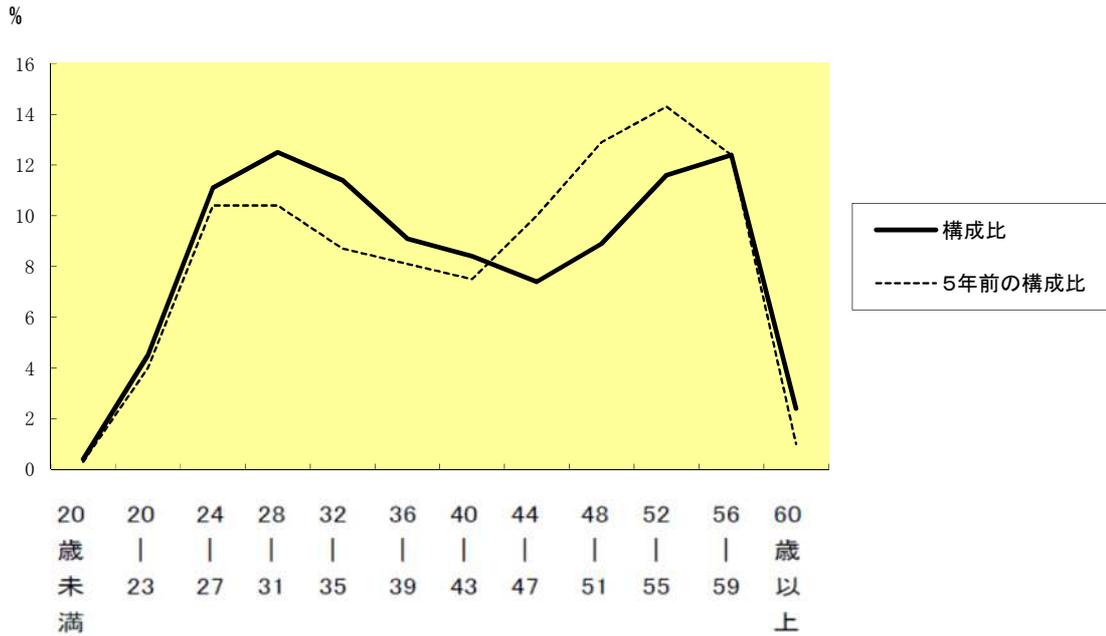
(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

部 門		職 員 数		対前年 増減数	主な増減理由	
		平成26年	平成27年			
普 通 会 計 部 門	一 般 行 政 部 門	議 会	73	72	▲1	欠員不補充
		総務企画	1,444	1,466	+22	公会計対応等
		税 務	757	749	▲8	業務見直し等
		民 生	959	963	+4	児童虐待支援対策強化等
		衛 生	1,240	1,230	▲10	地方独立行政法人神奈川県立病院機構構遣職員の引上げ等
		労 働	305	311	+6	欠員補充等
		農林水産	762	779	+17	欠員補充等
		商 工	362	368	+6	ヘルスケア・ニューフロンティア推進業務対応等
		土 木	1,171	1,194	+23	被災地への任期付職員派遣等
	計	7,073	7,132	+59	(参考：人口10万人当たり職員数78.2人)	
	教 育 部 門	48,721	48,722	+1	生徒数及び学級数の増に伴う教職員の増員等	
	警 察 部 門	16,962	17,155	+193	警察官の増員等	
	小 計	72,756	73,009	+253	(参考：人口10万人当たり職員数800.8人)	
公 営 会 計 部 門	水 道	648	657	+9	新財務管理システム開発対応等	
	下 水 道	78	75	▲3	業務見直し等	
	そ の 他	272	269	▲3	業務見直し等	
	小 計	998	1,001	+3		
合 計		73,754 [79,613]	74,010 [79,902]	+256 [289]	(参考：人口10万人当たり職員数811.8人)	

(注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。

2 []内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況 (27年4月1日現在)



区分	20歳未満	20歳23歳	24歳27歳	28歳31歳	32歳35歳	36歳39歳	40歳43歳	44歳47歳	48歳51歳	52歳55歳	56歳59歳	60歳以上	計
職員数	293人	3,348人	8,231人	9,218人	8,433人	6,719人	6,200人	5,457人	6,573人	8,584人	9,150人	1,804人	74,010人

(3) 職員数の推移

(単位：人・%)

年度	9年	22年	23年	24年	25年	26年
一般行政	11,205	7,492	7,374	7,245	7,083	7,073
教育	49,538	48,444	48,584	48,688	48,429	48,721
警察	15,142	16,844	16,850	16,853	16,887	16,962
消防	-	-	-	-	-	-
普通会計計	75,885	72,780	72,808	72,786	72,399	72,756
公営企業等会計計	3,430	1,021	994	995	1,000	998
総合計	79,315	73,801	73,802	73,781	73,399	73,754

年度	27年	過去5年間の増減数 (率)	過去18年間の増減数 (率)
一般行政	7,132	▲360 (▲4.8%)	▲4,073 (▲36.3%)
教育	48,722	278 (0.6%)	▲816 (▲1.6%)
警察	17,155	311 (1.8%)	2,013 (13.3%)
消防	-	-	-
普通会計計	73,009	229 (0.3%)	▲2,876 (▲3.8%)
公営企業等会計計	1,001	▲20 (▲2.0%)	▲2,429 (▲70.8%)
総合計	74,010	209 (0.3%)	▲5,305 (▲6.7%)

(注) 1 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数。

2 合併した団体については、合併前の年については合併前の旧団体の合計職員数。

※ 神奈川県では、全国に先駆けて平成9年度から行政改革に取り組んできました。

7 公営企業職員の状況

(1) 水道事業

①職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 25年度の総費用に占 める職員給与費比率
	千円	千円	千円	%	%
26年度	60,221,196	▲808,025	5,037,434	8.4	11.2

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)都道府県平均 一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
	人	千円	千円	千円	千円	千円	千円
26年度	663	2,670,281	903,169	1,115,026	4,688,476	7,072	7,024

- (注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、27年3月31日現在の人数である。

②職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況(27年4月1日現在)

区 分	平 均 年 齢	基本給	平均月収額
神奈川県	43.1 歳	392,799 円	589,144 円
団体平均	44.9 歳	373,439 円	583,783 円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

神奈川県		一般行政職(知事部局等)	
1人当たり平均支給額(26年度)		1人当たり平均支給額(26年度)	
1,666 千円		1,653 千円	
(26年度支給割合)		(26年度支給割合)	
期末手当	勤勉手当	期末手当	勤勉手当
2.60 月分	1.50 月分	2.60 月分	1.50 月分
(1.45) 月分	(0.70) 月分	(1.45) 月分	(0.70) 月分
(加算措置の状況)		(加算措置の状況)	
職制上の段階、職務の級等による加算措置		職制上の段階、職務の級等による加算措置	
職務段階別加算	5 ~ 20 %	職務段階別加算	5 ~ 20 %
管理職加算	10 ~ 20 %	管理職加算	10 ~ 20 %

※ ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当 (27年4月1日現在)

神奈川県			一般行政職 (知事部局等)		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分	勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分
勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分	勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分
勤続35年	41.325 月分	49.59 月分	勤続35年	41.325 月分	49.59 月分
最高限度額	49.59 月分	49.59 月分	最高限度額	49.59 月分	49.59 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)	
1人当たり平均支給額	5,103 千円	22,751 千円	1人当たり平均支給額	3,011 千円	23,720 千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、26年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当

(27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		280,646 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		423,166 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度 (支給率)
県内全市町村	10 %	662 人	10 %

エ 特殊勤務手当 (27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		20,164 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		50,664 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合 (26年度)		60.1 %		
手当の種類 (手当数)		5種類		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (26年度決算)	左記職員に対する支給単価
水道施設危険作業手当	企業局水道部計画課、企業局水道部水道施設課、各水道営業所、寒川浄水場又は谷ヶ原浄水場に勤務する職員	道路上で交通を遮断することなく行う水道施設の修繕等の業務	12,758千円	日額500円
有害毒薬物等取扱手当	寒川浄水場、谷ヶ原浄水場又は水道水質センターに勤務する職員	特に危険性を有する薬品、放射性物質もしくは人体に有害な微生物を取り扱う業務	1,986千円	日額400円 (常時従事) 250円 (常時従事以外)
危険手当	職員	直近上流の施設に水圧がかかっている場合のずい道等の内部における点検修理作業等の業務	665千円	日額500円 (荒天時750円)
夜間特殊業務手当	交替制勤務に従事する職員	正規の勤務時間による勤務の一部が深夜において行われる業務	4,740千円	1回490円
夜間緊急業務手当	職員	突発的に発生した業務等に対処するために緊急の呼び出しを受け、深夜において従事する業務	16千円	1回620円~1,240円

オ 時間外勤務手当

支給実績 (26年度決算)	261,428 千円
職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)	423 千円
支給実績 (25年度決算)	241,735 千円
職員1人当たり平均支給年額 (25年度決算)	385 千円

(注) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当 (27年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政 職の制度 との異同	一般行政職の 制度と異なる 内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 支給年額 (26年度決算)
扶 養 手 当	扶養親族のある職員に支給 配偶者 14,800円 配偶者以外の扶養親族 7,000円 扶養親族でない配偶者がある場合は このうち1人 7,800円 配偶者のない場合はこのうち1人 12,500円 満16歳の年度初めから満22歳の年度 末までの子の加算 7,000円	同		93,460 千円	274,883 円
管理職 手 当	管理又は監督の地位にある職員の職のうちその職務の特殊性 に基づき管理者が指定する職にある者に対して支給 139,300円～66,400円 (企業行政職給料表の場合)	同		42,652 千円	969,375 円
初任給 調 整 手 当	特殊な専門的知識を必要とし、かつ、採用による欠員の補充 について特別の事情があると認められる職で管理者が別に定め るものに新たに採用された職員に支給 採用後等の期間に応じて支給	同		0 千円	0 円
住 居 手 当	職員が借り受けた住宅に居住していて月額12,000円を超える 家賃を支払っている場合に支給 ①職員が自ら居住する住宅(借家・借間居住者) ○1箇月の家賃額が12,000円以下 支給せず ○1箇月の家賃額が23,000円以下 1箇月の家賃額から12,000円を減じた額を支給 ○1箇月の家賃額が23,000円を超える場合 $1 \text{ 箇月の家賃額} - 23,000 \text{ 円}$ に11,000円を加算 した額を支給。 ただし、支給限度額月額28,000円 ②単身赴任手当受給者の留守家族の居住する住宅 職員が自ら居住する場合の住居手当の2分の1に相 当する額を支給	同		55,923 千円	116,749 円
通 勤 手 当	通勤のため、交通用具又は交通機関等の交通手段によって住 居と勤務公署を往復する場合に支給 ① 交通機関利用者 ○6箇月を超えない期間(支給単位期間)につき算出 した運賃等相当額(6箇月定期券等低廉な価額)を 一括支給 ただし ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,000円を超え 45,600円未満の場合 $45,000 \text{ 円} + \frac{\text{運賃等相当額} - 45,000 \text{ 円}}{2}$ に支給単 位期間の月数を乗じた額を支給 ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,600円以上の 場合 1箇月の運賃等相当額-300円に支給単位期間の 月数を乗じた額を支給 ② 交通用具利用者 ・片道2km未満…支給せず ・片道2km以上60km未満 2,000円から28,100円まで を利用距離に応じ1箇月の通勤手当として支給 ・片道60km以上の場合 30,500円を1箇月の通勤手 当として支給 ③ 異動等に伴う新幹線等利用者の加算 ○6箇月を超えない期間(支給単位期間)につき算出 した特別料金等の2分の1相当額を支給 ただし、1箇月当たりの特別料金等2分の1相当額が 20,000円以上の場合 20,000円に支給単位期間の月 数を乗じた額を支給	同		122,851 千円	189,399 円

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 支給年額 (26年度決算)
単身赴任手当	公署を異にする異動又は在勤公署の移転に伴い住居を移転し、やむを得ない事情から配偶者と別居することになった職員のうち、単身で生活することを常況とする職員に支給 基礎額 月額 26,000円 職員の住居と配偶者の住居との間の交通距離が100km以上の場合は距離に応じて加算	同		0 千円	0 円
夜勤手当	正規の勤務時間として、午後10時から翌日午前5時までの間に勤務を命じられた職員に支給	同		26,045 千円	292,637 円
宿日直手当	宿日直勤務職員に支給 一般の宿日直勤務 1回6,400円	同		0 千円	0 円
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給対象職員及び特定任期付職員が、臨時又は緊急の必要その他公務運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、災害の対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時に勤務した場合に支給 管理職手当の支給区分等に応じた定額を支給	同		0 千円	0 円
特定任期付職員業績手当	12月1日(基準日)に在職する特定任期付職員のうち、特に顕著な業績を挙げたと認められる職員に対して支給 給料月額に相当する額	同		0 千円	0 円

(2) 電気事業

①職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 25年度の総費用に占 める職員給与費比率
26年度	千円 7,738,554	千円 662,126	千円 1,364,048	% 17.6	% 19.9

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
26年度	人 151	千円 621,087	千円 222,607	千円 268,679	千円 1,112,373	千円 7,367

(参考)都道府県平均 一人当たり給与費
千円 6,907

- (注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、27年3月31日現在の人数である。

②職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況 (27年4月1日現在)

区 分	平 均 年 齢	基本給	平均月収額
神奈川県	43.2 歳	407,867 円	609,616 円
団体平均	44.8 歳	372,929 円	583,245 円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

神奈川県		一般行政職 (知事部局等)	
1人当たり平均支給額 (26年度) 1,775 千円		1人当たり平均支給額 (26年度) 1,653 千円	
(26年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分 勤勉手当 1.50 月分 (0.70) 月分		(26年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分 勤勉手当 1.50 月分 (0.70) 月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 職務段階別加算 5 ~ 20 % 管理職加算 10 ~ 20 %		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 職務段階別加算 5 ~ 20 % 管理職加算 10 ~ 20 %	

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当 (27年4月1日現在)

神奈川県			一般行政職 (知事部局等)		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分	勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分
勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分	勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分
勤続35年	41.325 月分	49.59 月分	勤続35年	41.325 月分	49.59 月分
最高限度額	49.59 月分	49.59 月分	最高限度額	49.59 月分	49.59 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)	
1人当たり平均支給額	6,075 千円	25,166 千円	1人当たり平均支給額	3,011 千円	23,720 千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、26年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当

(27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		65,999 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		435,903 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度 (支給率)
県内全市町村	10 %	151 人	10 %

エ 特殊勤務手当 (27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		4,409 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		40,825 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合 (26年度)		71.5 %		
手当の種類 (手当数)		5 種類		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (26年度決算)	左記職員に対する支給単価
危険手当	職員	直近上流の施設に水圧がかかっている場合のずい道等の内部における点検修理作業等の業務	114千円	日額500円 (荒天時750円)
ダム・発電施設危険作業手当	相模川水系ダム管理事務所、酒匂川水系ダム管理事務所、相模川発電管理事務所又は発電総合制御所に勤務する職員	洪水時における発電設備の巡回点検業務、洪水警戒体制に伴う業務等	2,878千円	日額500円 (荒天時750円~1,000円)
雨量観測局作業手当	職員	雨量観測局において施設の点検、修理又は操作の作業	13千円	日額1,000円~2,600円
夜間特殊業務手当	交替制勤務に従事する職員	正規の勤務時間による勤務の一部が深夜において行われる業務	1,335千円	1回490円
夜間緊急業務手当	職員	突発的に発生した業務等に対処するために緊急の呼び出しを受け、深夜において従事する業務	70千円	1回620円~1,240円

オ 時間外勤務手当

支給実績 (26年度決算)	62,195 千円
職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)	454 千円
支給実績 (25年度決算)	59,502 千円
職員1人当たり平均支給年額 (25年度決算)	444 千円

カ その他の手当 (27年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政 職の制度 との異同	一般行政職の 制度と異なる 内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 支給年額 (26年度決算)
扶 養 手 当	扶養親族のある職員に支給 配偶者 14,800円 配偶者以外の扶養親族 7,000円 扶養親族でない配偶者がある場合は このうち1人 7,800円 配偶者のない場合はこのうち1人 12,500円 満16歳の年度初めから満22歳の年度 末までの子の加算 7,000円	同		25,614 千円	297,838 円
管理職 手 当	管理又は監督の地位にある職員の職のうちその職務の特殊性 に基づき管理者が指定する職にある者に対して支給 139,300円～66,400円 (企業行政職給料表の場合)	同		13,292 千円	949,416 円
初任給 調 整 手 当	特殊な専門的知識を必要とし、かつ、採用による欠員の補充 について特別の事情があると認められる職で管理者が別に定め るものに新たに採用された職員に支給 採用後等の期間に応じて支給	同		0 千円	0 円
住 居 手 当	職員が借り受けた住宅に居住していて月額12,000円を超える 家賃を支払っている場合に支給 ①職員が自ら居住する住宅(借家・借間居住者) ○1箇月の家賃額が12,000円以下 支給せず ○1箇月の家賃額が23,000円以下 1箇月の家賃額から12,000円を減じた額を支給 ○1箇月の家賃額が23,000円を超える場合 $\frac{1 \text{ 箇月の家賃額} - 23,000 \text{ 円}}{2}$ に11,000円を加算 した額を支給。 ただし、支給限度額月額28,000円 ②単身赴任手当受給者の留守家族の居住する住宅 職員が自ら居住する場合の住居手当の2分の1に相 当する額を支給	同		12,066 千円	110,698 円
通 勤 手 当	通勤のため、交通用具又は交通機関等の交通手段によって住 居と勤務公署を往復する場合に支給 ① 交通機関利用者 ○6箇月を超えない期間(支給単位期間)につき算出 した運賃等相当額(6箇月定期券等低廉な価額)を 一括支給 ただし ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,000円を超え 45,600円未満の場合 $45,000 \text{ 円} + \frac{\text{運賃等相当額} - 45,000 \text{ 円}}{2}$ に支給単 位期間の月数を乗じた額を支給 ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,600円以上の 場合 1箇月の運賃等相当額-300円に支給単位期間の 月数を乗じた額を支給 ② 交通用具利用者 ・片道2km未満…支給せず ・片道2km以上60km未満 2,000円から28,100円まで を利用距離に応じ1箇月の通勤手当として支給 ・片道60km以上の場合 30,500円を1箇月の通勤手 当として支給 ③ 異動等に伴う新幹線等利用者の加算 ○6箇月を超えない期間(支給単位期間)につき算出 した特別料金等の2分の1相当額を支給 ただし、1箇月当たりの特別料金等2分の1相当額が 20,000円以上の場合 20,000円に支給単位期間の月 数を乗じた額を支給	同		32,385 千円	217,067 円

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 (26年度決算)
単身赴任手当	公署を異にする異動又は在勤公署の移転に伴い住居を移転し、やむを得ない事情から配偶者と別居することになった職員のうち、単身で生活することを常況とする職員に支給 基礎額 月額 26,000円 職員の住居と配偶者の住居との間の交通距離が100km以上の場合に距離に応じて加算	同		0 千円	0 円
夜勤手当	正規の勤務時間として、午後10時から翌日午前5時までの間に勤務を命じられた職員に支給	同		6,623 千円	110,389 円
宿日直手当	宿日直勤務職員に支給 一般の宿日直勤務 1回6,400円	同		0 千円	0 円
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給対象職員及び特定任期付職員が、臨時又は緊急の必要その他公務運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、災害の対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時に勤務した場合に支給 管理職手当の支給区分等に応じた定額を支給	同		24 千円	12,000 円
特定任期付職員業績手当	12月1日(基準日)に在職する特定任期付職員のうち、特に顕著な業績を挙げたと認められる職員に対して支給 給料月額に相当する額	同		0 千円	0 円

(3) 公営企業資金等運用事業

①職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 25年度の総費用に占 める職員給与費比率
26年度	千円 3,900,650	千円 ▲2,973,125	千円 206,534	% 5.3	% 23.1

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)都道府県平均 一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
26年度	人 21	千円 87,239	千円 30,447	千円 38,296	千円 155,982	千円 7,428	千円 6,993

(注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、27年3月31日現在の人数である。

②職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況 (27年4月1日現在)

区 分	平 均 年 齢	基本給	平均月収額
神奈川県	43.4 歳	413,612 円	629,393 円
団体平均	42.5 歳	373,691 円	583,480 円

※ 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

神奈川県		一般行政職 (知事部局等)	
1人当たり平均支給額 (26年度) 1,781 千円		1人当たり平均支給額 (26年度) 1,653 千円	
(26年度支給割合)		(26年度支給割合)	
期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分	勤勉手当 1.50 月分 (0.70) 月分	期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分	勤勉手当 1.50 月分 (0.70) 月分
(加算措置の状況)		(加算措置の状況)	
職制上の段階、職務の級等による加算措置		職制上の段階、職務の級等による加算措置	
職務段階別加算	5 ~ 20 %	職務段階別加算	5 ~ 20 %
管理職加算	10 ~ 20 %	管理職加算	10 ~ 20 %

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当 (27年4月1日現在)

神奈川県			一般行政職 (知事部局等)		
(支給率)	自己都合	勲奨・定年	(支給率)	自己都合	勲奨・定年
勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分	勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分
勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分	勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分
勤続35年	41.325 月分	49.59 月分	勤続35年	41.325 月分	49.59 月分
最高限度額	49.59 月分	49.59 月分	最高限度額	49.59 月分	49.59 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)	
1人当たり平均支給額	6,075 千円	23,064 千円	1人当たり平均支給額	3,011 千円	23,720 千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、26年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当

(27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		9,213 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		428,306 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度 (支給率)
県内全市町村	10 %	21 人	10 %

エ 特殊勤務手当 (27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)	0 千円
---------------	------

オ 時間外勤務手当

支給実績 (26年度決算)	9,827 千円
職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)	517 千円
支給実績 (25年度決算)	10,483 千円
職員1人当たり平均支給年額 (25年度決算)	524 千円

(注) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当 (27年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政 職の制度 との異同	一般行政職の 制度と異なる 内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 支給年額 (26年度決算)
扶 養 手 当	扶養親族のある職員に支給 配偶者 14,800円 配偶者以外の扶養親族 7,000円 扶養親族でない配偶者がある場合は このうち1人 7,800円 配偶者のない場合はこのうち1人 12,500円 満16歳の年度初めから満22歳の年度 末までの子の加算 7,000円	同		2,462 千円	273,571 円
管理職 手 当	管理又は監督の地位にある職員の職のうちその職務の特殊性 に基づき管理者が指定する職にある者に対して支給 139,300円～66,400円 (企業行政職給料表の場合)	同		2,432 千円	1,216,150 円
初任給 調 整 手 当	特殊な専門的知識を必要とし、かつ、採用による欠員の補充 について特別の事情があると認められる職で管理者が別に定め るものに新たに採用された職員に支給 採用後等の期間に応じて支給	同		0 千円	0 円
住 居 手 当	職員が借り受けた住宅に居住していて月額12,000円を超える 家賃を支払っている場合に支給 ①職員が自ら居住する住宅(借家・借間居住者) ○1箇月の家賃額が12,000円以下 支給せず ○1箇月の家賃額が23,000円以下 1箇月の家賃額から12,000円を減じた額を支給 ○1箇月の家賃額が23,000円を超える場合 $1 \text{ 箇月の家賃額} - 23,000 \text{ 円} \quad \text{に} 11,000 \text{ 円を} \text{加算}$ した額を支給。 ただし、支給限度額月額28,000円 ②単身赴任手当受給者の留守家族の居住する住宅 職員が自ら居住する場合の住居手当の2分の1に相 当する額を支給	同		1,877 千円	117,318 円
通 勤 手 当	通勤のため、交通用具又は交通機関等の交通手段によって住 居と勤務公署を往復する場合に支給 ① 交通機関利用者 ○6箇月を超えない期間(支給単位期間)につき算出 した運賃等相当額(6箇月定期券等低廉な価額)を 一括支給 ただし ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,000円を超え 45,600円未満の場合 $45,000 \text{ 円} + \frac{\text{運賃等相当額} - 45,000 \text{ 円}}{2} \text{ に支給単}$ 位期間の月数を乗じた額を支給 ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,600円以上の 場合 1箇月の運賃等相当額-300円に支給単位期間の 月数を乗じた額を支給 ② 交通用具利用者 ・片道2km未満…支給せず ・片道2km以上60km未満 2,000円から28,100円まで を利用距離に応じ1箇月の通勤手当として支給 ・片道60km以上の場合 30,500円を1箇月の通勤手 当として支給 ③ 異動等に伴う新幹線等利用者の加算 ○6箇月を超えない期間(支給単位期間)につき算出 した特別料金等の2分の1相当額を支給 ただし、1箇月当たりの特別料金等2分の1相当額が 20,000円以上の場合 20,000円に支給単位期間の月 数を乗じた額を支給	同		4,635 千円	229,179 円

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 支給年額 (26年度決算)
単身赴任手当	公署を異にする異動又は在勤公署の移転に伴い住居を移転し、やむを得ない事情から配偶者と別居することになった職員のうち、単身で生活することを常況とする職員に支給 基礎額 月額 26,000円 職員の住居と配偶者の住居との間の交通距離が100km以上の場合に距離に応じて加算	同		0 千円	0 円
夜勤手当	正規の勤務時間として、午後10時から翌日午前5時までの間に勤務を命じられた職員に支給	同		0 千円	0 円
宿日直手当	宿日直勤務職員に支給 一般の宿日直勤務 1回6,400円	同		0 千円	0 円
管理職特別勤務手当	管理職手当の支給対象職員及び特定任期付職員が、臨時又は緊急の必要その他公務運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、災害の対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時に勤務した場合に支給 管理職手当の支給区分等に応じた定額を支給	同		0 千円	0 円
特定任期付職員業績手当	12月1日(基準日)に在職する特定任期付職員のうち、特に顕著な業績を挙げたと認められる職員に対して支給 給料月額に相当する額	同		0 千円	0 円

(4) 相模川総合開発共同事業

①職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 25年度の総費用に占 める職員給与費比率
	千円	千円	千円	%	%
26年度	1,395,506	0	491,690	35.2	36.6

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)都道府県平均 一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
26年度	人 60	千円 236,935	千円 90,977	千円 101,200	千円 429,112	千円 7,152	千円 7,024

(注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、27年3月31日現在の人数である。

②職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況 (27年4月1日現在)

区 分	平 均 年 齢	基本給	平均月収額
神奈川県	42.3 歳	392,354 円	595,480 円
団体平均	44.9 歳	373,439 円	583,783 円

※ 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

神奈川県		一般行政職 (知事部局等)	
1人当たり平均支給額 (26年度)		1人当たり平均支給額 (26年度)	
1,656 千円		1,653 千円	
(26年度支給割合)		(26年度支給割合)	
期末手当	勤勉手当	期末手当	勤勉手当
2.60 月分	1.50 月分	2.60 月分	1.50 月分
(1.45) 月分	(0.70) 月分	(1.45) 月分	(0.70) 月分
(加算措置の状況)		(加算措置の状況)	
職制上の段階、職務の級等による加算措置		職制上の段階、職務の級等による加算措置	
職務段階別加算	5 ~ 20 %	職務段階別加算	5 ~ 20 %
管理職加算	10 ~ 20 %	管理職加算	10 ~ 20 %

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当 (27年4月1日現在)

神奈川県			一般行政職 (知事部局等)		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分	勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分
勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分	勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分
勤続35年	41.325 月分	49.59 月分	勤続35年	41.325 月分	49.59 月分
最高限度額	49.59 月分	49.59 月分	最高限度額	49.59 月分	49.59 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)	
1人当たり平均支給額	5,103 千円	22,751 千円	1人当たり平均支給額	3,011 千円	23,720 千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、26年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当

(27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		25,120 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		425,052 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度 (支給率)
県内全市町村	10 %	59 人	10 %

エ 特殊勤務手当 (27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		1,772 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		34,082 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合 (26年度)		88.1 %		
手当の種類 (手当数)		5 種類		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (26年度決算)	左記職員に対する支給単価
危険手当	職員	直近上流の施設に水圧がかかっている場合のずい道等の内部における点検修理作業等の業務	54千円	日額500円 (荒天時750円)
ダム・発電施設危険作業手当	相模川水系ダム管理事務所、匂川水系ダム管理事務所、相模川発電管理事務所又は発電総合制御所に勤務する職員	洪水時における発電設備の巡回点検業務、洪水警戒体制に伴う業務等	373千円	日額500円 (荒天時750円~1,000円)
雨量観測局作業手当	職員	雨量観測局において施設の点検、修理又は操作の作業	23千円	日額1,000円~2,600円
夜間特殊業務手当	交替制勤務に従事する職員	正規の勤務時間による勤務の一部が深夜において行われる業務	1,256千円	1回490円
夜間緊急業務手当	職員	突発的に発生した業務等に対処するために緊急の呼び出しを受け、深夜において従事する業務	66千円	1回620円~1,240円

オ 時間外勤務手当

支給実績 (26年度決算)	29,222 千円
職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)	531 千円
支給実績 (25年度決算)	25,174 千円
職員1人当たり平均支給年額 (25年度決算)	458 千円

カ その他の手当 (27年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政 職の制度 との異同	一般行政職の 制度と異なる 内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 支給年額 (26年度決算)
扶 養 手 当	扶養親族のある職員に支給 配偶者 14,800円 配偶者以外の扶養親族 7,000円 扶養親族でない配偶者がある場合は このうち1人 7,800円 配偶者のない場合はこのうち1人 12,500円 満16歳の年度初めから満22歳の年度 末までの子の加算 7,000円	同		千円 10,078	円 272,387
管理職 手 当	管理又は監督の地位にある職員の職のうちその職務の特殊性 に基づき管理者が指定する職にある者に対して支給 139,300円～66,400円 (企業行政職給料表の場合)	同		千円 4,187	円 1,046,839
初任給 調 整 手 当	特殊な専門的知識を必要とし、かつ、採用による欠員の補充 について特別の事情があると認められる職で管理者が別に定め るものに新たに採用された職員に支給 採用後等の期間に応じて支給	同		千円 0	円 0
住 居 手 当	職員が借り受けた住宅に居住していて月額12,000円を超える 家賃を支払っている場合に支給 ①職員が自ら居住する住宅(借家・借間居住者) ○1箇月の家賃額が12,000円以下 支給せず ○1箇月の家賃額が23,000円以下 1箇月の家賃額から12,000円を減じた額を支給 ○1箇月の家賃額が23,000円を超える場合 $\frac{1 \text{ 箇月の家賃額} - 23,000 \text{ 円}}{2}$ に11,000円を加算 した額を支給。 ただし、支給限度額月額28,000円 ②単身赴任手当受給者の留守家族の居住する住宅 職員が自ら居住する場合の住居手当の2分の1に相 当する額を支給	同		千円 5,532	円 120,250
通 勤 手 当	通勤のため、交通用具又は交通機関等の交通手段によって住 居と勤務公署を往復する場合に支給 ① 交通機関利用者 ○6箇月を超えない期間(支給単位期間)につき算出 した運賃等相当額(6箇月定期券等低廉な価額)を 一括支給 ただし ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,000円を超え 45,600円未満の場合 $45,000 \text{ 円} + \frac{\text{運賃等相当額} - 45,000 \text{ 円}}{2}$ に支給単 位期間の月数を乗じた額を支給 ・1箇月当たりの運賃等相当額が45,600円以上の 場合 1箇月の運賃等相当額-300円に支給単位期間の 月数を乗じた額を支給 ② 交通用具利用者 ・片道2km未満…支給せず ・片道2km以上60km未満 2,000円から28,100円まで を利用距離に応じ1箇月の通勤手当として支給 ・片道60km以上の場合 30,500円を1箇月の通勤手 当として支給 ③ 異動等に伴う新幹線等利用者の加算 ○6箇月を超えない期間(支給単位期間)につき算出 した特別料金等の2分の1相当額を支給 ただし、1箇月当たりの特別料金等2分の1相当額が 20,000円を超える場合 20,000円に支給単位期間の 月数を乗じた額を支給	同		千円 11,659	円 197,448

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 支給年額 (26年度決算)
単身赴任手当	公署を異にする異動又は在勤公署の移転に伴い住居を移転し、やむを得ない事情から配偶者と別居することになった職員のうち、単身で生活することを常況とする職員に支給 基礎額 月額 26,000円 職員の住居と配偶者の住居との間の交通距離が100km以上の場合に距離に応じて加算	同		千円 0	円 0
夜勤手当	正規の勤務時間として、午後10時から翌日午前5時までの間に勤務を命じられた職員に支給	同		千円 3,396	円 87,067
宿日直手当	宿日直勤務職員に支給 一般の宿日直勤務 1回6,400円	同		千円 0	円 0
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給対象職員及び特定任期付職員が、臨時又は緊急の必要その他公務運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、災害の対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時に勤務した場合に支給 管理職手当の支給区分等に応じた定額を支給	同		千円 11	円 11,000
特定任期付職員業績手当	12月1日(基準日)に在職する特定任期付職員のうち、特に顕著な業績を挙げたと認められる職員に対して支給 給料月額に相当する額	同		千円 0	円 0

(5) 酒匂川総合開発事業

①職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 25年度の総費用に占 める職員給与費比率
26年度	千円 1,013,050	千円 0	千円 318,210	% 31.4	% 35.5

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)都道府県平均 一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
26年度	人 41	千円 158,142	千円 54,855	千円 67,192	千円 280,189	千円 6,834	千円 7,024

(注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、26年3月31日現在の人数である。

②職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況 (27年4月1日現在)

区 分	平 均 年 齢	基本給	平均月収額
神奈川県	39.7 歳	372,278 円	571,369 円
団体平均	44.9 歳	373,439 円	583,783 円

※ 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

神奈川県		一般行政職 (知事部局等)	
1人当たり平均支給額 (26年度) 1,684 千円		1人当たり平均支給額 (26年度) 1,653 千円	
(26年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分		(26年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分	
勤勉手当 1.50 月分 (0.70) 月分		勤勉手当 1.50 月分 (0.70) 月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 職務段階別加算 5 ~ 20 % 管理職加算 10 ~ 20 %		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 職務段階別加算 5 ~ 20 % 管理職加算 10 ~ 20 %	

※ ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当 (27年4月1日現在)

神奈川県			一般行政職 (知事部局等)		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分	勤続20年	20.445 月分	25.55625 月分
勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分	勤続25年	29.145 月分	34.5825 月分
勤続35年	41.325 月分	49.59 月分	勤続35年	41.325 月分	49.59 月分
最高限度額	49.59 月分	49.59 月分	最高限度額	49.59 月分	49.59 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%加算)	
1人当たり平均支給額	6,075 千円	23,064 千円	1人当たり平均支給額	3,011 千円	23,720 千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、25年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当

(27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		16,568 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		403,578 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度 (支給率)
県内全市町村	10 %	41 人	10 %

エ 特殊勤務手当 (27年4月1日現在)

支給実績 (26年度決算)		1,416 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)		36,317 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合 (26年度)		95.1 %		
手当の種類 (手当数)		4 種類		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (26年度決算)	左記職員に対する支給単価
危険手当	職員	直近上流の施設に水圧がかかっている場合のずい道等の内部における点検修理作業等の業務	122千円	日額500円 (荒天時750円)
ダム・発電施設危険作業手当	相模川水系ダム管理事務所、酒匂川水系ダム管理事務所、相模川発電管理事務所又は発電総合制御所に勤務する職員	洪水時における発電設備の巡回点検業務、洪水警戒体制に伴う業務等	704千円	日額500円 (荒天時750円~1,000円)
夜間特殊業務手当	交替制勤務に従事する職員	正規の勤務時間による勤務の一部が深夜において行われる業務	557千円	1回490円
夜間緊急業務手当	職員	突発的に発生した業務等に対処するために緊急の呼び出しを受け、深夜において従事する業務	35千円	1回620円~1,240円

オ 時間外勤務手当

支給実績 (26年度決算)	15,083 千円
職員1人当たり平均支給年額 (26年度決算)	387 千円
支給実績 (25年度決算)	11,919 千円
職員1人当たり平均支給年額 (25年度決算)	306 千円

(注) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当 (27年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政 職の制度 との異同	一般行政職の 制度と異なる 内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 支給年額 (26年度決算)
扶養手当	扶養親族のある職員に支給 配偶者 14,800円 配偶者以外の扶養親族 7,000円 扶養親族でない配偶者がある場合は このうち1人 7,800円 配偶者のない場合はこのうち1人 12,500円 満16歳の年度初めから満22歳の年度 末までの子の加算 7,000円	同		5,392 千円	245,093 円
管理職手当	管理又は監督の地位にある職員の職のうちその職務の特殊性 に基づき管理者が指定する職にある者に対して支給 139,300円～66,400円 (企業行政職給料表の場合)	同		2,143 千円	1,071,598 円
初任給調整手当	特殊な専門的知識を必要とし、かつ、採用による欠員の補充 について特別の事情があると認められる職で管理者が別に定め るものに新たに採用された職員に支給 採用後等の期間に応じて支給	同		0 千円	0 円
住居手当	職員が借り受けた住宅に居住していて月額12,000円を超える 家賃を支払っている場合に支給 ①職員が自ら居住する住宅(借家・借間居住者) ○1箇月の家賃額が12,000円以下 支給せず ○1箇月の家賃額が23,000円以下 1箇月の家賃額から12,000円を減じた額を支給 ○1箇月の家賃額が23,000円を超える場合 1箇月の家賃額-23,000円 2 した額を支給。 ただし、支給限度月額28,000円 ②単身赴任手当受給者の留守家族の居住する住宅 職員が自ら居住する場合の住居手当の2分の1に相 当する額を支給	同		4,501 千円	150,038 円

手当名	内容及び支給単価 (平成27年4月現在)	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (26年度決算)	支給職員1人 当たり平均 (26年度決算)
通勤手当	<p>通勤のため、交通用具又は交通機関等の交通手段によって住居と勤務公署を往復する場合に支給</p> <p>① 交通機関利用者</p> <p>○ 6箇月を超えない期間（支給単位期間）につき算出した運賃等相当額（6箇月定期券等低廉な価額）を一括支給</p> <p>ただし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1箇月当たりの運賃等相当額が45,000円を超え45,600円未満の場合 $45,000円 + \frac{\text{運賃等相当額} - 45,000円}{2}$ に支給単位期間の月数を乗じた額を支給 ・ 1箇月当たりの運賃等相当額が45,600円以上の場合 1箇月の運賃等相当額－300円に支給単位期間の月数を乗じた額を支給 <p>② 交通用具利用者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片道2km未満…支給せず ・ 片道2km以上60km未満 2,000円から28,100円までを利用距離に応じ1箇月の通勤手当として支給 ・ 片道60km以上の場合 30,500円を1箇月の通勤手当として支給 <p>③ 異動等に伴う新幹線等利用者の加算</p> <p>○ 6箇月を超えない期間（支給単位期間）につき算出した特別料金等の2分の1相当額を支給</p> <p>ただし、1箇月当たりの特別料金等2分の1相当額が20,000円以上の場合 20,000円に支給単位期間の月数を乗じた額を支給</p>	同		7,669 千円	191,614 円
単身赴手当	<p>公署を異にする異動又は在勤公署の移転に伴い住居を移転し、やむを得ない事情から配偶者と別居することになった職員のうち、単身で生活することを常況とする職員に支給</p> <p>基礎額 月額 26,000円</p> <p>職員の住居と配偶者の住居との間の交通距離が100km以上の場合に距離に応じて加算</p>	同		0 千円	0 円
夜勤手当	<p>正規の勤務時間として、午後10時から翌日午前5時までの間に勤務を命じられた職員に支給</p>	同		2,082 千円	115,653 円
宿日直手当	<p>宿日直勤務職員に支給</p> <p>一般の宿日直勤務 1回6,400円</p>	同		0 千円	0 円
管理職員特別勤務手当	<p>管理職手当の支給対象職員及び特定任期付職員が、臨時又は緊急の必要その他公務運営の必要により週休日又は休日に勤務した場合、災害の対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時に勤務した場合に支給</p> <p>管理職手当の支給区分等に応じた定額を支給</p>	同		0 千円	0 円
特定任期付職員業績手当	<p>12月1日（基準日）に在職する特定任期付職員のうち、特に顕著な業績を挙げたと認められる職員に対して支給</p> <p>給料月額に相当する額</p>	同		0 千円	0 円